

課題：下記の事例に関してジョンセンらの四分割表を参考にしつつ、各職種の視点からの意見を抽出し、議論の上で発表しなさい。

新庄さんは現在、28歳、心理学の大学院を出たあとに、あるホスピス¹で心理カウンセラーをしている。キューブラー・ロス²が書いたように人間の死というものを受容するときにはさまざまな感情が入り乱れ、その感情をうまくサポートし、終焉のときを安らかに迎えていただくことが自分の仕事であり、生きがいである。

そんな、ある日のこと、35歳の女性医師、宮内さんが入院してきた。病状は乳がんの全身転移で、余命は2ヶ月程度である。同じく医師である夫とは2年前に離婚し、子供は宮内さんが引き取って一緒に暮らしている。前夫はすでに再婚し、自分との間にできた子供のことなんて気にも留めていない様子である。子供は、9歳になる正ちゃんと、6歳のひろみちゃんである。毎日、宮内さんの母親が子供たちを病室に連れてくる。あどけなく、自分にまわりついてくる子供たちを見ていると、迎えなければならない死の瞬間への恐怖や緊張も忘れてくる。

あるとき、宮内さんが「自分の死を子供たちが受け入れてくれるでしょうか。私は医師ですから癌の末期の身体状況がどんな風になっていくかを存じています。そんなときにやつれていく私の姿を子供たちの心に残しておきたくないのです。今の親のぬくもりというものだけ残しておきたいのです……あの子達は私が死んだら、お父さんもお母さんもいなくなるのです。」と新庄さんに言ってきた。

注1 ホスピス：末期患者を対象として身体的・肉体的苦痛を緩和するための施設。医師、看護師、薬剤師、家族のほか精神科医、心理カウンセラーなどを含めたチーム医療が重要な役割を果たす。

注2 キューブラー・ロス(1926～)：「死ぬ瞬間」を書き、死の医学の世界的なパイオニアとなった。

問1 もし、あなたが宮内さんの立場であれば、終焉のときに子供と一緒にいてほしいですか？
それとも終焉のときを子供に見せないようにしますか？

問2 もし、あなたが医療者として宮内さんや家族をサポートする立場であれば、どのように対応していけばいいと思いますか。